

藤本美貴

この項目は『リゾナントブルー Another Versからストーリーを想像するスレ』（以下、リゾスレ）に発表された小説の登場人物、藤本美貴に関する事実を記述していきます。
モーニング娘。6期メンバー藤本美貴さんについての情報をお求めの方は、適切なサイトをお探しになることを推奨します。（但し、実在のアーティストの楽曲のPVから想像した作品を投稿していくリゾスレの性質上、実在する藤本美貴さんに関する事実の記述が一部に存在する事を、ご了承ください）

- [1.リゾスレとの関り](#)
 - [2.ヘケートとミティ](#)
 - [3.人物像](#)
 - [4.他の登場人物との関係（対リゾナンター編）](#)
 - [5.他の登場人物との関係（対ダークネス編）](#)
 - [6.氷の魔女](#)
 - [7.実力](#)
 - [8.藤本美貴が登場する作品](#)
-

1.リゾスレとの関り

- リゾスレにおいては、氷の魔女ミティとして登場することが多い。
 - 藤本美貴が初めてリゾスレに登場したのは、2008年4月14日。
 - 雑談の中でリゾナンターの敵役としてその名が挙げられたが、その際には藤本美貴としてではなく、暗黒魔女ヘケートとして登場した。
 - ヘケートという名前の由来はモーニング娘。が出演したミュージカル『リボンの騎士』で、藤本美貴が演じた魔女の役名から来ていると思われる。
 - 初めて登場した小説作品は、『[モーニング戦隊リゾナンター 希望の少女](#)』であり、以後リゾナンターに敵対する組織ダークネスの一員として、幾多の作品に登場することになる。
 - 魔女という大時代なキャラがマッチするのか、戦隊物のパロディ作品への登場頻度も多い。
 - 現在はスレ全体として自粛傾向にあるが、胸ネタの全盛期にはその標的になることも多かった。またその報復としてネタを書き込んだリゾスレ住人の多くを凍らせた。
 - カセットという発売形態が話題になったシングル『置き手紙』を題材にした小説がリゾスレに投下されたこともある。
 - 気温が寒くなってきたときには、“ミティが暴れてる”、“ミティひどいよ”というレスが書き込まれることも多い。
 - 2009年1月に開催されたエルダークラブ卒業記念スペシャルのコンサートで、素晴らしいパフォーマンスを披露し、筋金入りのダークネスメンバーであるにも拘らず、絶賛の聲がリゾスレを賑わした。
 - スレが安定期に入って移行、リゾナンターの中の人の誕生日には、小説を中心とした聖誕記念作品が上げられる事が慣例となっていたが、2009年2月26日、ミティの中の人の誕生日前後には複数の小説がリゾスレに投下され、祝福の書き込みも多数行われた。（但しリゾナンターの場合のように、幸せ一杯のオタオメ作品ではなかった）
これはダークネスのメンバーとしては初めての事態である。
スレに無くてはならない存在として愛されていることの証明であろう。
-

2.ヘケートとミティ

前述の通り、リゾスレに初めてその足跡を刻んだのは、ヘケートとしてであったが、すぐにもう一つの名前が誕生した。
それがミティである。
しばらくの間は、氷の魔女という設定は共通でありながら、ヘケートとミティという異なる名前

で作品に登場していたが、やがてミティに一本化されていく。

3.人物像

- ・ リゾスレにおいては、人や動物の命を奪う事に何の躊躇もしない残忍な魔女として描かれる事が多い。
その代償としてカリゾナンターによって倒される回数も多い。
 - ・ 久住小春の**発電**や、道重さゆみの別人格**さえみ**が初めて発動した時の敵は、藤本である。
また吉澤ひとみの**物質転移**がリゾスレに初お目見えした際の相手も藤本である。
いずれの作品でも手酷くやられている。
 - ・ リゾナンターに対して直接攻撃してくるだけでなく、一般人に能力を付与したり、精神的な揺さぶりをかけてくるなど狡猾な一面も持つキャラとして描かれている。
 - ・ ダークネスに堕ちた理由は、永遠の若さを求めたからというのが当初の設定だった。
『**叶わぬ願い**』では、輪廻転生してくるであろう死別した親友と巡り合う為に、永遠の命を求めたという設定にアレンジされている。
 - ・ 『リボンの騎士』でヘケートを演じた藤本の画像が貼られた事もあって、小説には中世の魔女を思わせる黒のドレスを着て登場することが多い。
例外的に黒のレザージャケットにマイクロミニを身につけたミティが描かれた**作品**もある。
-

4.他の登場人物との関係（対リゾナンター編）

- ・ 高橋愛に対しては、『**光放つ、原罪**』では、催眠術を駆使して幼児退行させ、i914の人格を出現させて里沙の命を奪わせようとするなど、容赦無い。
[Takahashi+6th \(12\)710](#)においては、リーダーとしての重圧に苦しむ高橋を気遣う意外な一面も見せている。
 - ・ 新垣のことを“ガキンちょ”と呼ぶことがある。
その呼称は親近感を込めてというよりは、力の差を誇示する意識から使われている場合が多い。
 - ・ コメディ系の**スパイの憂鬱**シリーズにおいては、自分と同じツッコミ適性のある新垣里沙に対して、シンパシーを感じているようである。
 - ・ モーニング娘。では同じ6期にあたる亀井絵里、道重さゆみ、田中れいなとの関係性は作者によって異なっている。
それはリゾナンターを作り、メンバーを集めたのが高橋愛だという設定と、“M.”の系譜に連なる集団という設定が混在する為である。したがって作品によって亀井達は藤本を以前の仲間と認識していたり、未知の敵として認識している場合とがある。
それは他のリゾナンターにも共通して言えることである。
 - ・ 意気軒昂な田中をガン無視したことがある。
 - ・ 亀井とは相性が良く、優しい言葉をかけたこともある。
-

5.他の登場人物との関係（対ダークネス編）

- ・ リゾナンターの先代リーダーである吉澤ひとみを裏切り襲ったたという設定で幾つかの作品が書かれている。
したがって吉澤とは反目している設定で描かれる事が多い。
『**見守る者たち - 夢爆弾に託して -**』では、組織に反抗的な吉澤に対して制裁を加えるのが藤本であることが、吉澤自身の口で語られている。
確執がピークに達した両者が戦う話が『**the revenger 前編**』である。
- ・ 吉澤との間ほど深刻ではないが、肅清人Rこと石川梨華との関係も悪い。
前述の『**the revenger 前編**』において、新垣里沙を奪還する為に海上の監獄に乗り込んできたリゾナンターに対して、そのプランに欠陥があることを知りながらもRを迎撃に向かわ

せて、漁夫の利を狙おうとした。

その逆に[Other\(05\)491](#)では、リゾナンターにやられて散々な目に遭った藤本の映像を見て、愉快気に話すRの姿が見られる。

- 現実においても親交が深く、藤本との組み合わせで某飼育におけるカップリングトーナメントにおいても上位に入選した事がある松浦亜弥であるが、リゾスレにおいては2人の関係が描かれる事は少ない。

[Michishige \(03\)833](#)において、さえみに追いつめられた藤本を、松浦を思わせる全身レザーの女性が救出しに来る場面がある。

『[コードネーム「pepper」 - ガイノイドは父の夢を見るか? - 2](#)』の“第9話：Craftiness”では、アヤと共に行動するミティの姿が見られる。

- 前述した『[叶わぬ願い](#)』では、闇に堕ちる以前の藤本の親友として、松浦が登場している。

6.氷の魔女

- 氷の魔女の名に相応しく冰雪系の攻撃能力を駆使して、リゾナンターに襲い掛かってくる姿が数多く描かれている。
- 氷の矢や氷の槍を作り出して、遠距離攻撃を行ったり、氷の吐息を吹き込んだり、気温を急激に低下させて標的を凍死させることも出来る。
また氷柱体を出現させて敵の動きを制限したり、氷の壁によって敵の攻撃を防ぐことも可能。
また気温の低下によって銃のスライドアクションに不具合を生じさせた事もある。
氷の魔女の別名から接近戦による直接攻撃は不得手に思われがちだが、氷の剣や氷の鎌で敵に切りかかる姿も見受けられる。
- 冰雪系の攻撃魔法という広範囲を攻撃できる能力を持つ設定であることから、かなりの数の一般人に危害を加えている。
その犠牲者の数はおそらくダークネス側の能力者の中でも一、二を争う。（艦隊を全滅させた[安倍なつみ](#)には敵わないものの、ビル1棟を容易く崩壊させる力を持つ[後藤真希](#)よりもその犠牲者の数は多い。それは前線に出てくる回数という面で、また敵への加虐性という面で藤本が後藤を上回っているからであろうと推測される）
- 氷使いという漠然とした定義で語られていたミティの能力について、[禍刻の人](#)が独自かつ緻密な解釈を行っている。
『[禍刻 Witch like an icicle](#)』に詳しく記されている。

7.実力

小春&愛佳、吉澤ひとみ、保田圭、高橋愛、ジュンジュン、リンリン、さえみたちと戦い、尽く敗れている。（[蒼の共鳴](#)シリーズでは、リゾナンターを襲撃してくるダークネスの能力者は、劣化クローンである場合が多いので、その点を考慮する必要はある）

異なる作家の筆によるものといえ、何度倒されても復活してくる有様を見た読者が、復活の是非を雑談で話し合ったこともある。

8.藤本美貴が登場する作品

- [作品のネタバレに注意](#)（左下の[+]をクリックすると本文が開きます）

...